

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2170600510 | | |
| 法人名 | 医療法人社団睦会 | | |
| 事業所名 | グループホーム昭和館まどか | | |
| 所在地 | 岐阜県羽島郡笠松町円城寺947-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年8月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年10月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=trus&ligyosoCd=2170600510-00&PrefCd=21&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと | | |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成28年9月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業所が、運営されているため、利用者やご家族の安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれています。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実現するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の玄関は、雰囲気のある和風の門構えであるが、室内は天井が高く、開放感がある。管理者と職員は、共通の価値観と相互の信頼関係を構築し、思いやりを大切にしながら、地域住民と共に利用者を支えている。管理者は、職員の資格取得を支援し、事業所全体で専門職としての自己研鑽に努めている。管理者の「来る人を拒まず」の姿勢は、職員間にも浸透しており、利用者の尊厳を守り、人権を尊重したケアを行なっている。母体の医療法人は、複数の介護事業を運営しており、各事業所と連携をとりながら、利用者の笑顔、やさしさ、生きる役割を支え、家族の安心感につなげ、サービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員としてホームにはいつでも来ていただけるようにしている。 | 理念は「思いやりがかよう同居人生活」としており、事務所や玄関の目につく場所に掲示している。家庭的な雰囲気づくりに努め、職員会議やミーティングで振り返りながら、理念の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のふれあいサロンに参加したり、近くの喫茶店に行ったりして、ふれあいを持つようになっている。また地域の方にホームの行事に参加していただいたり、民生委員の視察研修の場所として交流している。 | 母体法人が主となり、地域の清掃活動や行事に参加している。また、利用者とふれあいサロンや近隣の喫茶店に出かけるなど、地域とつながりを持てるよう努めている。職場体験や看護学生の実習受け入れも行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 私たちの専門性をいかし地域の方の話を聞いたり、アドバイスしたり、また、申込みに見えたご家族には、少しでも手助けになるよう話を聞いたり、相談に乗ったりしています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、年6回開催し、民生委員、行政、家族が参加し意見交換している。又評価後に、ご家族にアンケートを出しそれをもとに運営推進会議で話し合いを持っている。 | 会議は定期的に行われ、行政・民生委員・家族等が参加している。行事と重ねた会議で、参加者と手づくり弁当を食べることもある。活動状況や現状の課題について意見交換を行い、会議で出た意見をサービスの向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 町職員には毎回運営推進会議に参加していただき、意見交換ができています。又入居時にも情報が頂けたり、相談もできる。 | 行政とは、空き情報や法律改正について、日常的に意見を交換し、協力関係を築いている。また、行政主催の研修会や連絡会議に参加し、サービスの向上に繋げている。事業所は、民生委員の視察研修の場にもなっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人全体で取り組んでいる。権利擁護委員会も2か月に1回開催され、事例検討もしている。玄関のカギは、施錠しなくてもよい構造になっている。 | 法人全体で身体拘束をしないケアを実践している。マニュアルを基に学び、話し合う機会を設け、意見交換を行っている。身体ばかりでなく、言葉による拘束とならないよう、不適切な言葉を禁止し、利用者が穏やかに、日々を過ごせるよう支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の研修会に参加し、職員全員に周知し虐待についてのアンケートを取りミーティングで話し合う。その時には、不適切なケアと思われる事例として検討している。 | | |

グループホーム昭和館まどか

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度については、理解しているため、必要と感じた時には、家族に話すようにしている。 現在3名の方が、利用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時、十分な説明を行い理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置している。又毎月利用者の様子を家族あてに書面で報告し、面会時に出来る限り要望が聞けるようにしている。 | 家族の訪問時に、利用者の日頃の様子を伝え、意見や要望を聞いている。訪問が困難な家族には、電話で聞き、毎月、利用者の生活状況を書いた便りを、家族に送付している。家族から食事介助についての質問があり、専門職を交えて食事介助用具の検討を行い、改善した事例がある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は、職員の日々の会話から不安などの相談を受けるようにしている。行事などは職員が計画を立て実行できるようにしている。 又、研修や、資格取得も奨励している。 | 管理者は、職員が意見や提案、気づき等を、自分の言葉で発言する勉強会を設けている。また、面談でも職員の意見や提案を聞ける体制がある。職員が働きやすい環境作りに努め、研修受講や資格取得を支援している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の希望をできるだけ受け入れ勤務表に反映している。職員評価は、年3回管理者が行なっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修情報は、回覧で回している。希望があれば参加できるようにしている。又管理者より必要な研修は、指示をすることもある。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は、岐阜県グループホーム協議会の理事であり同業者との交流を持っている。職員は研修などで交流を持つようにしている。認知症介護実践研修には、介護福祉士が取れるようにしています。 | | |

グループホーム昭和館まどか

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。 不安や困っていることは、家族と相談しながら対応する。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 十分時間をかけるようにしている。不安なことはすぐに対処するようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内にあるサービスの事業所の意見を聞き、適切なサービスを支援する。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家族のこだわり、困惑などを聞き、日々の生活の中から、信頼関係が得られるようにして、本人のできることが、日課になり、他者との関係をより良いものにしていく。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族には、毎月暮らしの情報を郵送している。 気持ち、行動、状態を知ってもらうことで、家族と共有する。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族と連絡を密に取り、馴染みの人としての関係が途切れないように支援に努める。 入居者同士が知り合いという方が多くなり、入居者の家族でなくても近所であることで話しかけてもらえる。 | 契約時に、利用者・家族から情報を得ながら、利用者の馴染みの関係を把握しており、職員間で情報を共有している。利用者の共通の知り合いが訪問することが多く、それらの繋がりが継続できるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 座席の配慮をしたり、会話を促したり、日常生活の中から関わりを持つようにしている。 よく動かれる方のそばで入居者同士が話をするようにしている。 | | |

グループホーム昭和館まどか

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院に入院されても、病院に見舞いに行き、状態の把握に努めご家族とのつながりが途切れないようにしている。又いつでも相談に来て頂けるようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族から情報を得たり、本人の希望、意向を把握し困難な場合は、職員全員で相談し希望、意向に沿えるよう努力する。 | 入居時のアセスメントや、家族からの情報を得て、本人の意向や要望を把握している。また、日常の個別ケアの際、利用者の表情や動作からも、利用者の思いを把握するよう心がけ、職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時の情報を基に、生活歴、生活環境これまでのサービス利用の把握をして、利用者との馴染みの関係を築きながら、日々の暮らしに役立てる。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 健康管理票の利用や、カルテの記事で把握ができるようにして、個々に合わせた日課表を作成している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月発行している生活状況より家族利用者の希望を聞き、職員の意見や、ケアの記録を参考に介護計画を作成して、カンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。 | 本人・家族の思いや意向を聞き、ケア記録を基に医師や担当職員、関係者の意見を反映させながら、介護計画を立てている。定期的にカンファレンスを行い、利用者の状態を確認しながら、柔軟に見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子、ケア実践は個別の記録に記入し情報を共有する。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 母体が医療法人で他のサービス事業所がありいつでも相談でき、利用することができる。そのため家族より相談があってもすぐに対処できる。 | | |

グループホーム昭和館まどか

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小、中学生のボランティア、研修生を受け入れ民生委員の方より地域の情報をいただいたり、包括支援センターより相談を受けたりしています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体が病院なので定期的の往診を受けて、適切な医療を受けている。 | 契約時に、本人、家族にかかりつけ医の選択について説明している。協力医は母体法人の医師であり、月2回の往診体制の下、適切な医療支援を行っている。緊急時にも、素早い対応が行える体制があり、家族の安心につながっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携加算にて、日常の健康管理はできている。又相談もいつでもできる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には、サマリーを書くことで情報を伝え連携を密にしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族利用者が、最期をグループホームでと願う方に身体的、精神的苦痛の緩和し日々の暮らしを営むよう援助する。 | 入居時に事前確認書を基に、重度化や終末期の支援について説明している。終末期には、早い段階から、その都度、医師と職員と家族で十分に話し合いを重ね、方針に沿って支援をしている。看取りの事例がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応手当の話し合いをし緊急時のマニュアル作成をしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして働きかけをしたり、年2回の避難訓練では、夜間を想定し、利用者と共に訓練をしている。 | 消防署の指導の下、年2回夜間想定も含めて、法人全体の合同防災訓練を実施している。避難訓練や連絡網の取り扱い等の訓練を実施し、近隣との連絡体制の取り組みを進めている。備蓄品の点検も定期的に行い、不足分の補充をしている。 | 水害や地震についても、地域住民と共に対策を検討中である。地域が水害にあった時代もあり、再度、運営推進会議等で課題を話し合い、現状を把握し、災害対策の具体化に期待したい。 |

グループホーム昭和館まどか

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊厳、人格についての勉強会をしたり、職員間で意識し合うよう話し合いを持ったり、自尊心を傷つけないよう関わっている。 | 利用者の人格を尊重して、会話や言葉かけに配慮し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。事業所が、「安心して過ごせる場所」となるよう、職員は、常に傾聴の姿勢で対応し、笑顔で支援を行うよう心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の意見を、確認しながら行っている。又、意志の確認ができない方は、職員がその人に合わせた過ごし方を支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に応じて快適な身なりの支援をしている 又希望に応じて選ぶ場合もある。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたり、季節の食材を取り入れ、畑で採れた野菜、近所で頂いた野菜などを利用し季節感を味わってもらう。又準備を手伝ったり、後片付けなど出来ることをしていただいている。 | 各ユニットで旬の食材を取り入れ、職員と利用者が調理方法について会話をしながら、食事の準備をしている。居間全体に調理の匂いが漂い、食欲増進に繋がり、利用者は、ほぼ完食している。職員は、声かけをしながら、利用者の嚥下機能の状態を確認し、食事介助を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事形態、量はその人に合ったものにし、水分の取れない方は、その方の好きなものにしていきます。栄養バランスは、法人内の栄養士に確認している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、その人に合った口腔ケアをしている。 | | |

グループホーム昭和館まどか

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者は、できる限りトイレでの排泄に心掛けている。トイレ誘導はその人に合った排泄パターンで行っている。 | 利用者の排泄パターンを把握し、動作を観察しながら、タイミングに合わせた声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄を基本に支援をしている。個々の状態や、尿量に合わせ、紙パンツとパッドの組み合わせを工夫しながら、自尊心を大切にした対応を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々に合わせた便秘予防をしている。水分量、根野菜を多くしたり、内服で調整したりしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は週3回で、時間は職員に合わせているが、一人一人の入浴時間は利用者に合わせている。 例えば、ゆっくり入りたい人には時間の配分を考えている。 | 入浴は週3回、体調に合わせて午前・午後に分けて、入浴介助をしている。入浴は職員と利用者とのコミュニケーションの場にもなっている。入浴時間は、利用者の希望に合わせて支援をし、足浴は毎日行い、白癬菌の予防に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の希望に添えるようにしている。眠剤を使用しないで、お茶、牛乳などを飲んでいたり、会話したり、職員と過ごし休んでもらう。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 管理者、看護師が把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 畑やプランタンで野菜を育て、収穫の喜びや楽しみを味わっている。ラジオ体操、遊びりなどで気分転換を図れるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 職員の時間のある時には、散歩に出かけるようにしている。 又職員の付き添いで、コンビニ、歯科に行ったり、月に1回町主催のふれあい喫茶に参加し、地域に人と交流持っている。 | 利用者の体調や天候に合わせながら、ホーム周辺を散歩したり、近くの神社まで出かけている。また、中庭での外気浴も行っている。年間計画では、手づくり弁当を持参して、桜の花見を楽しんでいる。 | |

グループホーム昭和館まどか

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と相談して、管理できる方は本人が管理してできない方は、職員が管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助をしている。電話は、希望があればいつでもできるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間では、利用者が好きなところでくつろげ、中庭への出入りは自由で、職員は見守りをして、居心地良く過ごせるようしている。 | 玄関には、夫婦の人形が置かれ、来訪者の気持ちを和ませている。共有空間は、昭和の名残があり、温かみがある。中庭は出入りも自由であり、利用者は季節感を味わうことができ、高い天井は解放感がある。壁には手づくり作品や行事の写真が掲示してあり、居心地よく過ごせる工夫がある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間に畳のスペース、廊下に椅子を置きひとりになる工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者個々の差はあるが、思い思いの居室が作られている。花が好きな利用者が、家族と庭に花を植え、毎日眺めて楽しんでいる。 | ベッドとクローゼットが設置され、安全に広く使うことができる。和室もあり、利用者や家族の意向に合わせた居室である。テレビや鏡、使い慣れた小物等が持ち込まれ、花や写真を飾り、利用者の個性ある居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。 | | |